

けの者ということです。学級は“集団”です。体がそこに存在するだけでなく、心も所属しておくことが大事になってきます。そのような学級にするように心掛けていきたいと思っています。

☆一人ひとりのよさを生かす

誰もが何らかのよさをもっています。それを学級のために、みんなのために使えるように仕掛けていきます。子どもたち一人ひとりに自己有用感を見いだせるようにしていくことをねらいとして取り組んでいきます。

このような取り組みを行っていくことによって、子どもたちが「いじめ」を考えるヒマを与えないようにしたいと思っています。

*メニュー1：出会いの演出****

学級づくりのポイントは、始業式から3日間にあると考えます。「この先生なら、自分を大切にしてくれるにちがいない」「この友だちとなら、楽しくできそうだ」「この学級でなら、いろいろなことにがんばれそうだ」などの期待感を子どもたちが抱くようなスタートを切らせたいと思っています。このこそ、学級を準拠集団化していくことにつながり、同時にいじめが生まれにくい学級をつくる基盤になると考えています。

※具体的な取り組みは、メルマガ第2号で紹介しています。ホームページのバックナンバー版もしくはテーマ別一覧から検索してください。

*メニュー2：学級目標づくり****

子どもたちの活動を実のあるものにしていくには、目標が必要です。ということで、ここでは、「学級目標のつくりかた」「学級目標を教室の飾りにしないために」「集団としてのルール」という3点を提案しました。

はじめの2つについては、メルマガ第3号と第4号で紹介しています。ホームページのバックナンバー版もしくはテーマ別一覧から検索してください。

「集団としてのルール」では、いじめに対する教師の構えを見せる必要があることを提案しました。

*メニュー3：笑顔と遊び心～明るい雰囲気づくり****

いじめが生まれにくい学級に絶対必要なものは『明るい雰囲気』です。そのために、教師自身が笑顔と元気を忘れないようにしたいと思っています。ということで、次のようなことの提案を行いました。

▽遊び心のある授業

「遊び心のある授業」というのは、授業の中で、子どもたちが思わず微笑むような状況を作り出そうという提案です。ここでは、「くじを使って子どもたちに発言させる“くじ発言”」「子どもたちの競争意識を刺激する“〇〇大会”」

「漢字を楽しく学ぶ“漢字フェスティバル”」の3つを提案しました。

▽プラス思考で考えよう

つねに前向きに考える習慣をつけておくことは、学級をよりよくしていくために大きな力になっていきます。そこで、ここでは、「3つの禁句“でも”“どうせ”“だって”」「子どもを誉めて伸ばす“プラス評価”」「まちがいを生かすつづやきを生かす」「明るく笑いのある雰囲気をつくる」という4つの提案を行いました。

メニュー4：役割意識と組織***

◇子どもたちが自らのエネルギーを学級（みんな）のために使うために役割意識を高めます。そのために学級の組織をつくりましょうという提案をしました。

☆一人一当番活動

「みんなのために汗を流せる人になろう」をスローガンに、一人一当番活動を仕組む提案をしました。ここでは「ネーミングを工夫すること」「当番ビンゴ」「めざせプロ」の3つの提案でした。

☆子どもの発想を生かした係活動

【係づくりの6条件】

- 条件1：自分のよさ（得意技）を活かそう
- 条件2：来る者拒まず 去る者追わず
- 条件3：イベント活動を仕掛けよう
- 条件4：ネーミングを工夫しよう
- 条件5：人数制限をしない
- 条件6：教師の願いを係活動に

☆主体性を育てる実行委員会活動

実行委員会システムとは、「何かをやりたい」と思った者が実行委員会を組織するやり方です。発想の段階で委員会が発足し、その企画が終了すると同時に解散するというやり方です。

2 中国学級活動ネットワークin米子 報告 その6～調査官の話その2

ネットワーク米子での杉田調査官の話のつづきです。

次に学級目標の到達度を定期的にチェックしている学校を紹介されました。その学校では、子どもたちにアンケートを採って、それを%で表しているということです。たわいもないことですが、学級目標が作られたまんま、そのまま、お題目になっていることが多いので、こういうことをきちんとやっていくことが大事だという

お話でした。

さらに、先生たちに必要であると言われたハートとセンスについて、次のような話をされました。

「教育は人間と人間の関係の上に成り立っていると思っていること、そう考えると、学級経営をうまくさせる方法、集団づくりの方法は、風呂敷で集団を束ねるということではなく、担任として、30人なら30人、40人なら40人との糸がきちんと結べるかどうかというのが大事である」。

例えば、同僚や先輩などに「あなた、よく頑張ったね」と言われた時に、たいてい嬉しいと思うけど、同じような嬉しさじゃないこと、言ってくれた人によって感じる嬉しさは違うことを話され、「あの人に誉められたら嬉しい」という関係がなければ、いつまでたっても学級経営はうまくいかない、ということをお話されました。これが、調査官が一番大事だと主張されている「ハートとセンス」であるということです。

教育の世界で流行を追うことだけに一生懸命になるという姿勢を変えなければ、とっってもじゃないけど、やっていけないということです。

続いて、「明日への希望が人を育てる」という、調査官の教育心情を紹介されました。つまり、今日学校に行ってみようということがあると来ている子どもが何人いるかということだそうです。思わず、今日学校に行きたいことがあると思って早く目が覚めてしまうという子どもが何人いるかということだそうです。子どもたちがそう感じるかどうかは、やはり教師の差であると言われました。学校の楽しさとは遊園地的な楽しさではなくて、例えば、自分がやりたいと思ったことができた。絶対できないと思っていた計算ができた。絶対跳べないと思っていた跳び箱が跳べた。それも級友の励ましの中でできるということが、それが楽しさであるということでした。そういったものをどれだけ味わわせることができるかが教師の力量だということです。

杉田調査官の話のつづき、まだまだ続きます。

3 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第29号は3月下旬ごろ発行予定です。

次号も、春の学習会での内容をお知らせします。

原稿の投稿がありましたら、そちらを優先することがあります。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は139名です。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。

登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆ “旬の情報” 実践投稿のお願い ◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。

もうすぐ新学期。そこで、新しい子どもたちとの出会いの演出を募集します。

<実践投稿のヒント>

その1 始業式前日までにどういう準備をしたらいいか。

その2 始業式、子どもたちと出会ったとき、どういうことをしようと（話そうと）思っているか。

その3 始業式後、一週間以内に取り組んでみようと思っていることはどういうものか。

以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp

どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

=====
山口学級活動ネットワーク メールマガジン
☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで
☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部
梶田崇晴（山口市立平川小） 津村元文（防府市立西浦小）
能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小） 吉田哲朗（山口大学附属山口小）
=====